

第 1 章 市民経済計算の見方

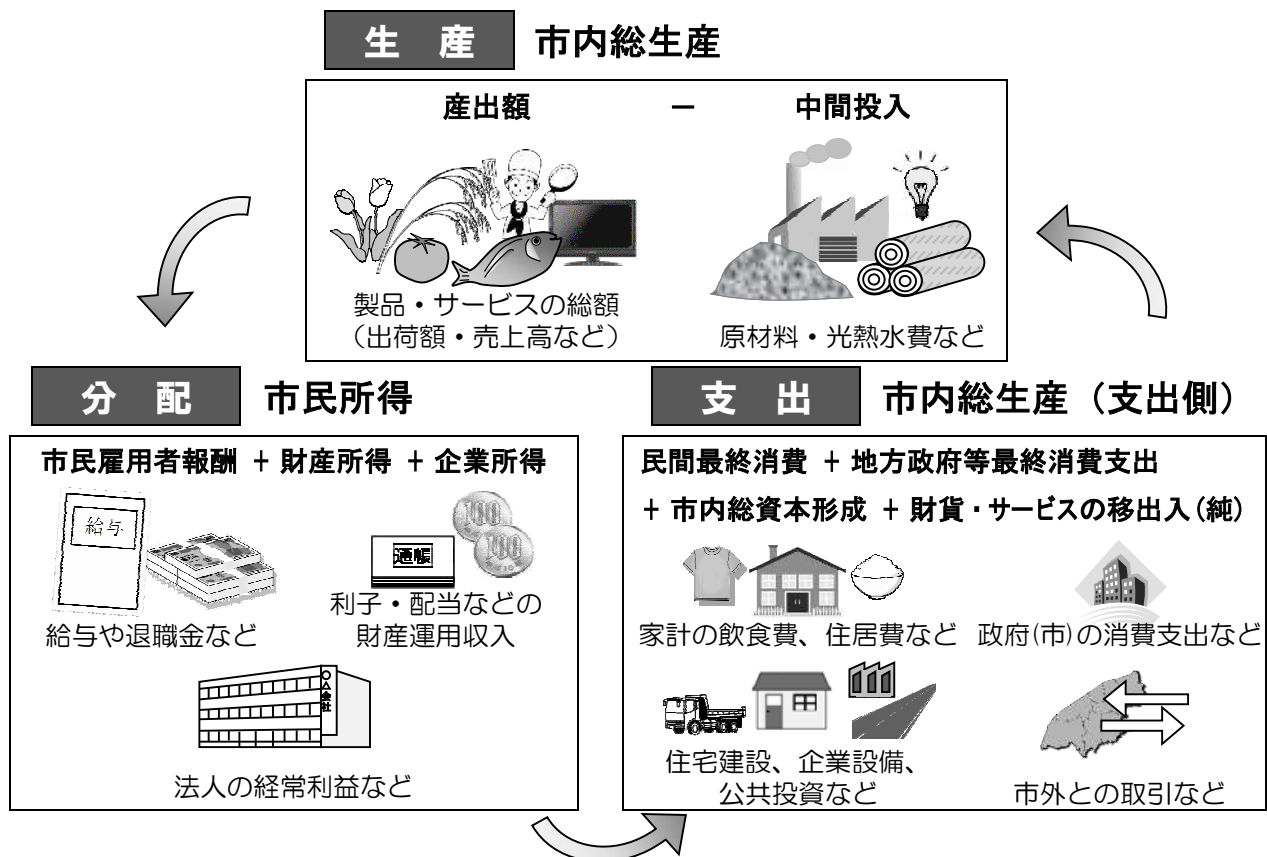
I 市民経済計算とは

市民経済計算は、国民経済計算の基本的な仕組みや考え方にに基づき、市という行政区域を単位として、経済活動によって生み出された付加価値（経済活動の成果）を事後的に計測する経済指標です。

1年間に市内で産出された付加価値を生産、分配、支出の3つの異なった面からとらえることにより、市経済の規模、産業構造等の実態を体系的に明らかにしています。

<p>市民経済計算でわかること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市経済の規模と経済成長率 ○産業の構造 ○所得水準や分配の状況 ○家計消費や企業の設備投資 など 	<p>市民経済計算は何に使えるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市経済活動・構造の分析 ○経済計画の策定 ○諸施策の評価・分析 ○国、県、他政令市、過去との比較 など
---	--

私たちの経済活動は、生産活動を行うことにより、モノやサービスを**生産**して、新たな価値（付加価値）を作り出しています。その生産活動によって生じた付加価値は、生産に参加した人や企業に**分配**されて所得となります。その分配された所得を使って、モノやサービスに対する**支出**（消費・投資）をしています。その消費・投資は、さらに次の生産につながっていきます。経済活動はこのように生産、分配、支出という循環を繰り返しています。これらは、経済活動を異なる面から捉えたものですから、1年間の総額は原則一致し、概念的には「**生産**」＝「**分配**」＝「**支出**」となります。これを「**三面等価の原則**」といいます。



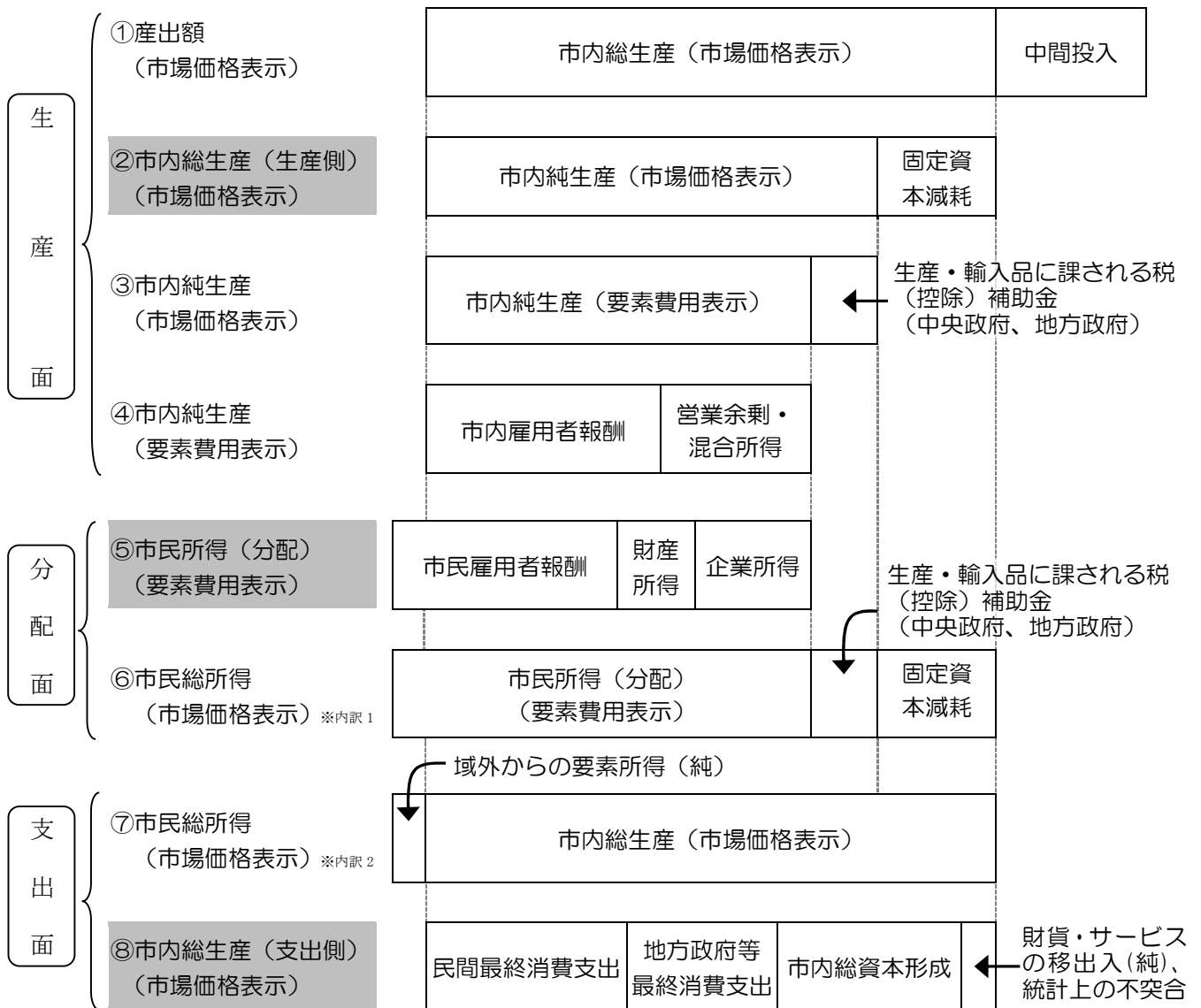
市民・市内概念

「市内」ベースは、市内の経済活動で生み出された付加価値を対象とするもの（属地主義）で、「市民」ベースは市民の経済活動で生み出された付加価値を対象とするもの（属人主義）です。

市民経済計算では、生産系列と支出系列は「市内」ベースで、分配系列は「市民」ベースで推計しています。

市民総所得 = **市内総生産（支出側）** + **域外からの要素所得（純）**
 【市民概念】 【市内概念】 【域外からの雇用者報酬など】

II 市民経済計算の概念と相互関係図



は主要系列表の主な指標

